

## もの言う牧師のエッセー 第267話

## 「ヤギの呪い」

米大リーグのシカゴ・カブスが71年ぶりワールドシリーズ（WS）に進出し、11月2日に第7戦が行なわれ、1908年以来108年ぶりに優勝を果たした。カブスのファンは喜びを爆発させ、そして叫んだ。「ヤギの呪いは解けた！」と。

事件は1945年10月6日にカブスの本拠地で行なわれたWS第4戦で起きた。熱狂的なカブスのファン、ビリー・シアニスさんがペットのヤギと一緒に観戦していたところ、「臭い」という理由で退出を命じられた。怒ったビリーさんは、「ヤギの入場が許されるまで、カブスは2度と優勝できない！」と言い放ち球場を後にした。果たせるかなビリーさんの言葉は現実となり、その年カブスは第7戦でタイガースに敗退。以降、今シーズンまで70年もの間、WSに出場することすら出来ず、長きにわたって「ヤギの呪い」のジンクスとしてカブスを悩ませたのだった。

実は聖書には「ヤギの呪い」が登場する。難解な箇所として知られ、今から約3500年前に書かれた**レビ記の16章**に記されている「アザゼルのヤギ」がそれだ。神の命により古代イスラエルの人々は、自分たちの罪のつぐないのために2頭のヤギを用意し、1頭を神に捧げるために殺して血を注ぎ出し、アザゼルと呼ばれるもう1頭のヤギは

**「生きているヤギの頭に両手を置き、イスラエル人の全ての咎と、全てのそむきを、どんな罪であっても、これを全部その上に告白し、これらをそのヤギの頭の上に置き、係りの者の手でこれを荒野に放つ。そのヤギは、彼らの全ての咎をその上に負って、不毛の地へ行く。彼はそのヤギを荒野に放つ。」**  
**レビ記16章21-22節、**

とあるように、人々の罪を負って荒野に放たれた。他者に責任転嫁する“スケープゴート”はここから来ている。この2頭のヤギは、この1500年後に神から人類へ送られた救い主であるキリストを表し、まさに彼は十字架上で血を注ぎ出し、我々全てが犯した罪を背負って代わりに罰を受け、我々の罪を永久に追放して呪いを解いて下さったことを指す。イエスを信じる者は、やがていかなる苦難からも解放され、喜びを爆発させる時が来る。 2016-11-25

